

熟議 ～現場の課題解決と教育政策形成の好循環～

文部科学省生涯学習政策局政策課

1. はじめに

少子高齢化の急速な進行，経済のグローバル化，そして未曾有の震災からの復興と，我が国に山積する課題を乗り越えていくために，教育の充実が求められることは言うまでもないが，期待の一方で不満や苦言も聞かれるのが現状であろう。民主主義の成熟に伴い，もはや少数の「権威」ある集団が，教育政策を決めるだけでは，教育を受ける子どもたちも保護者も，教員も満足はせず，ともすれば，国の教育政策は，「自分には関係ないこと」という考えに陥る危険すらある。

民意をより反映させていくためには，教育政策の形成プロセスにおいて，教育現場に関わる様々な立場の人たちから広く意見を収集することが基本であり，さらに，様々な課題について，当事者たちが学習し議論し，そのことで，課題への理解を深め，互いの立場の違いを認識し，その上で新しい知恵を生み出していくことが，多くの当事者間でなされる必要がある。

このような問題意識のもと，文部科学省では平成22年4月から教育政策形成や現場の教育課題解決を進める上での重要な方法として，「熟議」の取組を進めている。

2. 熟議と文部科学省の推進体制

文部科学省では，「熟議」とは，多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決，政策形成していくこととしており，具体的には，
①多くの当事者（保護者，教員，地域住民等）が集まる
②課題について学習・熟慮し，議論をする
③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる
④解決策が洗練される
⑤個々人が納得して自分の

役割を果たすようになる，というプロセスのことを言うとしている。

このような意義，機能を有する熟議について，当省では「文科省政策創造エンジン熟議カフェ」サイト上での熟議（以下「ネット熟議」）と対面での熟議（以下「リアル熟議」）の取組を並行して実施・促進している。また，政府として初めての取組であることから文部科学副大臣の主宰により「熟議」に基づく教育政策の在り方に関する懇談会（座長：金子郁容慶應義塾大学教授，以下「熟議懇談会」）を設置し，教育行政，ネット系企業，教育現場，研究者などの委員の議論を踏まえて，熟議の推進に取り組んでいる。

3. ネット熟議・リアル熟議共通事項

取組を進める中でわかったネット熟議・リアル熟議双方に共通する効果としては，教育現場の当事者が積極的に参加し，政務三役や国・行政に対する「文句」ではなく，真摯な議論が重ねられてきており，熟議の教育現場の実現，教育文化醸成の芽が出てきていることが挙げられる。

また，教育現場の当事者による，実践に根ざした議論の中で，課題意識の全体像や濃淡が浮かび上がり，また多くの示唆が得られる提案も多数存在し，教育政策の洗練につながっている。

さらに，熟議のプロセスの結果が審議会等に報告されることで，審議会における議論がさらに活性化し，それを受けてまた熟議も活性化するという相乗効果も生まれている。

加えて，ネット熟議を契機に全国各地でリアル熟議が開かれている一方で，リアル熟議を契機にネット熟議に参加するようになった人も多数おり，国民が主体的に教育現場をより良くする取組

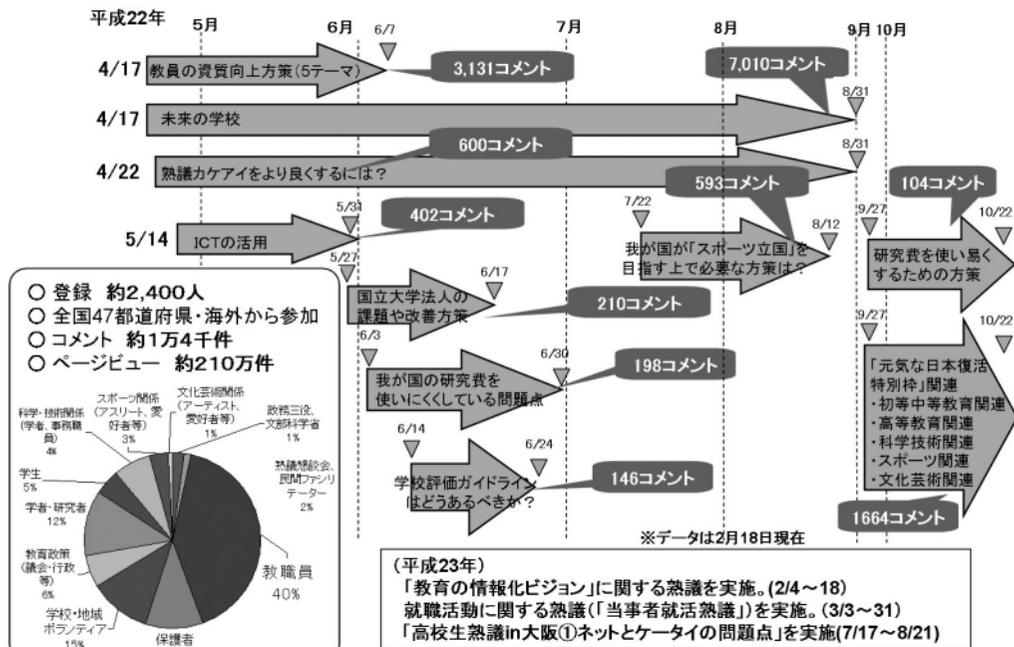


図1 ネット熟識(「熟識カケアイ」サイト運営状況)

が相乗的に広がっている。

4. ネット熟識関係

ネット熟識の運営状況については、図1のとおりである。平成22年4月のサイト開設からこれまで、約20テーマのネット熟識が実施され、全国47都道府県・海外から約2,400人が参加し、約1万4,000件の対話・意見表明がなされてきた。

「教員の資質向上」に関する熟識では、「文部科学省への提案書」がサイト参加者により主体的に取りまとめられ、文部科学副大臣に対して直接手交されたとともに、中央教育審議会にも報告され、審議の材料として活用されている。

「国立大学法人」、「学校評価ガイドライン」に関する熟識では、パブリックコメントと並行して行われ、国民の意見募集の更なる実質化、政策案に関する現場の浸透度の更なる向上等が図られた。

「研究費」に関する熟識では、科学・技術に携わる多数の当事者により、現状の課題や解決策の案が提示され、それらを受けて文部科学省で精査を加えた中間報告には、研究開発の現場に直接望ましい影響を与える内容が盛り込まれ、複数の専門誌で一面を飾る等注目を集めるとともに、報告

内容の一部を平成23年度予算に反映する等、迅速な取組が行われた。

5. リアル熟識関係

リアル熟識の開催状況については、熟識の取組を開始した平成22年4月から平成23年7月までにより、全国各地約110箇所で開催される等、着実に全国の教育現場等の当事者に根付いてきており、熟識の結果が自治体の施策に取り入れられる事例も出ている。例えば、平成22年6月に行われた横浜市リアル熟識では、多数の参加者から学校と地域をつなぐ「地域コーディネーター」の重要性が指摘されたこともあり、横浜市中期4カ年計画と横浜市教育振興基本計画に「地域コーディネーターの養成」や「学校に地域連携担当を置くこと」が明記された。また、リアル熟識後も継続的に熟識を重ね、当事者による教育現場作りに率先して取り組む等、現場の具体的なアクションに結びつく事例も多数出てきている。

さらに、教職員、保護者・地域等の当事者が「熟識」を通してよりよい学校・地域づくりを行う大人を中心とした熟識だけではなく、小学校などの学級会や代表委員会の場で熟識が行われるな

熟議のすすめ

～現場の課題解決のためのツールとして～

リアル熟議実践イメージ



図2 リアル熟議実践イメージ

ど、子どもたちの話し合いと実践でよりよい学級・学校の生活を創り出すための「子ども熟議」(特別活動で育む「生きる力」)の取組も始まっている(図2)。

6. ICTをテーマにした熟議の事例

熟議の手法はICTに関する現場の課題解決や教育政策形成にも活用されている。ここでは、2つの事例を紹介したい。

①「教育の情報化ビジョン」策定にあたっての熟議

平成23年4月、教育の情報化に関する総合的な推進方策である「教育の情報化ビジョン」が取りまとめられたが、その策定にあっても、熟議が行われていた。

「教育の情報化ビジョン」は、全12回に及ぶ懇談会と3つのWGにおける議論を経て取りまとめられたものであり、策定までは、懇談会設置、骨子公表、WGによる個別事項の検討、ビジョン策定という流れがあった。

熟議は、この流れと並行して行われ、懇談会の議論の活性化に貢献した。

まず、本ビジョンの検討を行うため設置された「学校教育の情報化に関する懇談会」の第1回会合実施後の平成22年5月14日～5月31日に、ICTの活用に関する熟議がカケアイサイト上にて行わ

れた。実施にあたっては、①デジタル教科書・教材②情報端末及びデジタル機器③ICTを活用した校務支援システム④児童生徒、教員等へのICT教育⑤その他、教員へのサポート等といった論点を提示し、様々な意見交換がなされた。寄せられた意見(書き込み総数402件)については、事務局で整理したうえで、懇談会における有識者による議論の参考となった。

そして「教育の情報化ビジョン」骨子とWGの報告書が公表されたことを受けて、平成23年2月4日～2月18日にも、ネット熟議が行われ、広く意見の募集がなされた。寄せられた意見(351件)をもとに骨子を肉づけし、教育の情報化ビジョンが策定されていった。

いずれの熟議も教職員、学者・研究者、保護者、学校・地域ボランティアなど様々な方々が、熟議に参加し、それぞれの視点から意見が出されたことで、議論の充実につながった。

これに加えて、NPO法人が主催し、カケアイサイトと懇談会の議論を踏まえたリアル熟議も行われた。「ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか?」というテーマのもと、現場の先生方が中心に参加した。

事前に、懇談会とカケアイサイトでのこれまでの議論を整理した資料を配布するなど、当日の議

論をより深いものにする工夫がみられた。

②「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪

～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～

このプロジェクトは、大阪エリアの私立高校の教員による大阪私学教育情報化研究会が近畿圏の高校生を対象に、プレゼンテーションの総合的な技能の向上を目指すため以前から実施していたものを、今年は、全3回のセッションを熟議の手法を取り入れ実施するもので、ケータイ・インターネットの在り方、活用法を考えるとともに「考え、まとめる、話す、見せる、伝える」などの技術を習得することをねらいとしている。一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構の主催、大阪私学教育情報化研究会と安心ネットづくり促進協議会の共催で、文部科学省、総務省が後援。熟議懇談会委員の鎌田真樹子氏も熟議指導として参画している。

平成23年7月16日に行われた第1回目の熟議では、「ケータイについてこんな問題があるとは思わなかった」「他の人の意見を聞くことで新たに分かった事もあった」（いずれも当日実施した参加者アンケートから）という感想が寄せられ、課題に対する学習・熟慮、他者との相互理解の深まりがみられた（写真）。

特筆すべきは、各回の熟議実施後に、参加者を対象に、熟議カケアイによるネット熟議も並行して行っており、リアルとネットのハイブリッド展開により、議論の深化を図っている点である。

そして、全3回の熟議終了後、高校生による、文部科学副大臣へのプレゼンテーションを行うことを予定している。

7. まとめ

熟議の意義、ネット熟議・リアル熟議の共通事項、それぞれの事例をみてきたが、熟議は現場の課題解決と教育政策形成の新たな手法として期待される一方、熟議への参加は、関係者の参画意識の向上、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上、学びあい、協働のための意識と行動の促進、参加者がともに作り上げる解決策など高い教育効果と民主的な態度の育成に貢献する。ゆえに、多くの教育現場で熟議が行われてほしいと願うところである。

文部科学省ではリアル熟議を企画・主催する者に対して以下のような支援を行っている。

- ・熟議カケアイサイトへの実施告知・結果の掲載
- ・熟議のテーマに関する資料の提供（関連データ資料等）
- ・熟議の実施に際しての参考資料の提供（リアル熟議実践パッケージ「熟議虎の巻」等）
- ・子ども熟議パンフレット「子ども熟議」のススメ（現在は、小学生版のみ）の熟議カケアイサイトへの掲載

熟議に興味・関心を持たれた方は担当（文部科学省生涯学習政策局政策課 電話03-6734-4111（内線3464）メールアドレスjukugi@mext.go.jp）までお気軽に問い合わせいただきたい。

参考

- ◎熟議カケアイサイト
<http://jukugi.mext.go.jp/>
- ◎熟議虎の巻
<http://jukugi.mext.go.jp/archive/305.pdf>
- ◎子ども熟議パンフレット「子ども熟議」のススメ
<http://jukugi.mext.go.jp/archive/512.pdf>
- ◎熟議懇談会報告書「熟議に基づく政策形成展開～更なる推進に向けて～（平成22年）」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/022/toushin/1308817.htm



「高校生熟議 in 大阪」の様子